



名泉郷住みよい街を創る会
会長 左高 源弘さん

日々の活動はできることから

平成15年の発足以来、毎日朝夕の通学見守りや50人規模のパトロール、防犯講座の開催など積極的に防犯活動に取り組んでいます。イノシシ対策で狩猟の免許取得に向けた準備や資格を持つ会員によるフィルタリング講習会など自分たちでできる活動を行っています。

設立当初の隊員数は8人でしたが、今や成人住民の約30%である127人に増えました。犬の散歩をする人が多いので、散歩の際には、パトロール用の黄色いジャンパーを着てもらったりと各個人ができることから

住みよいまちは自分たちで

「創る」

「名泉郷住みよい街を創る会（名創会）」の会長。左高源弘さんに自主防犯への思いをお聞きしました。



活動してもらっています。

自主防犯組織は地域にとって重要な犯罪者に「あそこは見回りをしているから近づかないでおこう」と思われるように、名泉郷では青パト4台で朝夕のパトロールを行っています。

子どもは地域の宝物

活動維持の秘訣は、子どもたちの存在。どの子も自分の子どものように大切に。普通、校門といえば、学校の門ですが、バス通学の名泉郷では、バスの乗り口が校門。バスに乗せるまでは、地域が子どもたちを見守る責任があると考えています。

名泉郷の住人は、他の土地から移って来た人たちの集まりです。しかし、子どもたちにとってはここが生まれ故郷。ここが生まれ故郷。子



地域でつくる安全・安心なまち

子どもたちは地域の宝。子どもたちが誇れるふるさとであるように。自分たちで自分たちのまちを守っていく。



地域を見守る「自主防犯組織」

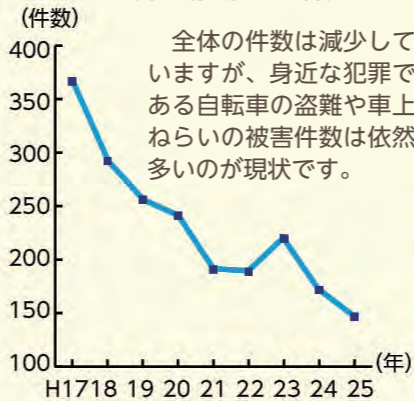
近年、鍵のかかっていない住宅への侵入被害や不審者による子どもへの声かけ事案が増えています。これらの犯罪を未然に防止するため、自主的に防犯パトロールや登下校時の子どもの見守り活動などを行う組織が「自主防犯組織」です。

あわら市の現状

現在、市では11の自主防犯組織が設立され、防犯パトロールや登下校時の子どもの見守り活動などを行っています。

警察や市の防犯隊だけでは、地域の隅々まで目が行き届かないことがあります。身近な犯罪を防ぐためにも、地域での自主的な防犯活動は重要です。

あわら警察署統計による管内の刑法犯認知件数



自主防犯組織の結成を応援！

自主防犯組織活動 事業補助金

市では、自主防犯組織の結成促進・活動支援を目的として補助制度を設けていますので、ご活用ください。

- 対象** 夜行チョッキ、点滅指示灯、腕章、マグネットシート、懐中電灯などの防犯活動用品の購入に要する経費
- 補助率** 経費の10分の3（限度額 2万円）
- その他** 初めて補助金を申請する場合は、自主防犯組織登録が必要
- 申込み** 総務課安全対策室 73,8040

名泉郷の自主防犯組織が受賞

名泉郷区の自主防犯組織「名泉郷住みよい街を創る会」が安全・安心なまちづくり功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。この受賞は県内初で、積極的な自主防犯活動が認められたものです。



地域で防犯組織を結成するには？

安全で安心して暮らせる地域社会の実現には、地域住民による防犯の輪を広げることが重要。この運動を成功させるポイントは、「無理をせず・できることから」です。

○まず、できることから始める

町内でのあいさつ、声かけ運動や散歩、買い物時のパトロールなど小さなことが防犯活動につながります。

○町内会やPTAなどと連携

身近に起こる犯罪を防ぐために、地域みんなが協力して防犯活動に参加しましょう。

○防犯パトロールは昼と夜の2回

ドロボウは昼夜を問わず行動します。子どもの下校時に昼の防犯パトロールを行えば、子どもを犯罪から守る活動にもなります。

○パトロールは自立つ姿で

蛍光色のジャンパーを着用したり、携帯誘導灯や鈴などを携帯すると存在感を強く示すことができ、効果があります。

地域住民が力を合わせて防犯活動を積極的に行っている姿勢をアピールすることが犯罪抑止につながります。